

148th EVE 完全復活

同志社大学の創立記念祭 EVE が今年はい場制限なし

EVEとは？

実行委員に密着取材

EVEとは団体活動の発露の場、学生の自主管理運営。この2つを理念のもとに開催される一大行事。それを運営する団体のEVE実地は安全、安心、公平、円滑な運営を目指す。約60人のメンバーで宣伝、会場整備、企画の立案などをメインに活動している。今年「今を紡ぐ、人を結ぶ」というテーマに基づき取り組みを行っている。



▲1990年115th EVEの様子



発行 同志社学生新聞局
(今出川本局)
〒602-0056
京都府京都市上京区西大路町61-1
同志社大学 学生会館 421
発行責任者 田中 賢

11
November 2023
No. 120

今後のイベント
11/26(SUN) EVE 開催
11/28(TUE)
11/29(WED) 創立記念日



今月の紙面	
2	福島スタディツアー 福島の今
3	フラダンスサークルメアフラ紹介
3	バンドサークル F・S・S 紹介
4	EVE テーマソング「糸口」独占取材

総務局を彩るキャンパス

委員長である商3回の葛野伸哉さんは「EVE実の委員長は団体の象徴であり、責任が大きい立場です。約3万人以上の参加者がいるイベントを運営する団体の長として、委員長は組織の顔と呼ばれます。この立場においては責任の重さを感じながらも、団体としてのイメージを大切に、組織としての評価を下げないように努力しています」とコメントしており、委員長の立場は特殊で、他の幹部と異なり局を持たないため、寂しさや孤独感を感じることもあるそう。それでも着実に学園祭の運営を進め、組織内外での協力と調整に務めている。

総務局はアマークと

のコラボパフェ、EVE タトゥーシールの販売、SNS 活動など幅広く活動しており局全体からは自由な雰囲気を感じられる。また、総務局長の文3回・常松さくらさんは福島県PR 企画を推しており、「教室展示の赤べこはインスタ映えスポットにもなるため多くの人の来場が期待されている」とコメントしている。総務局のグロ地1回・吉田万葉さんはEVE ステージの横断幕を担当しており、去年よりも彩りのある華やかなステージになると予想される。局長はどんな

注目の企画局やる気十分



▲去年度のステージの様子

人?という質問に局員からは「優しくて、頼りがいのある母さんのような存在」という意見が多く、実際、人望の厚いイメージが印象的だった。

一番注目を集めるであろうステージ企画を担当する企画局局長、社3回・川上慶人さんはラップバトル、DJ 企画、芸能人トークショーは見ものであると語った。去年は惜しくもトークショーは実現しなかったが、ラップバトルとDJ 企画は正門からの一本道が観客にほとんど埋め尽くされる程の盛りぶりだった。ラップバトルの司会進行は去年に引き

学生のパワー!!! 今出川に満つ

んは「出演者の当日無断欠席は許されるべきものではないが、その空いた枠は自分が出演する。」とコメントしており、企画に責任を持つこの姿勢から自分の手でより良いものにしたという気持ちも伝わった。また、「芸能人トークショー」は「なかやまきんにくん」が出演予定。他にも教室でのフアッシュンショーやステージでの懐メロカラオケも企画されており、懐メロ企画を担当する商1回の刀根風生さんは「内容としては80年代〜90年代の名曲を通して全世代に楽しんでもらいたいという思いから企画した。以前 SNS で話題となった、主婦が手書きで書いたレシピがガチャガチャの賞品となる『手書きレシピガチャ』から着想を得た『歌詞みくじ』も是非来場者に楽しんでもらいたい。また、予想よりも応募者が多く、8組を選ぶのは大変だった」と語った。カバー曲も中森明菜やウルフルズなど年配の方でも楽しめるものとなっており、若年層も名曲を知れる良い機会となるのではないだろうか。



今を紡ぐ、人を結ぶ
148th 同志社 EVE

▲148th EVE のロゴ



▲ X (Twitter)



▲ Instagram

また、ここまで仕事の内容についてのインタビューが多いが遊びも充実しており、メリハリのある団体だということも伝わった。学生生活を謳歌しつつ、課外活動にも力を入れた学生にはうってつけの団体だ。しかし、EVE 実の応募は2回生まで、オリ実は2回の春までと期限が決まっているため興味のある人は注意が必要だ。

【山下 恵市】

取材を経て

2日間に渡るインタビューを通して、それぞれの局での大変さや各々の想いがあることが分かった。この記事では載せきれないがEVE 実には多数の団体との交渉、連絡、調整だけでなく、学生支援課とも協議の上で様々な決定を下している。現在の幹部は3回生であり運営と就活の両立は大変なものだろう。この記事を通して団体の方々のEVE 実への理解が少しでも深まり、悪いイメージを払拭できればと思う。

